

| 1-1 建物概要 |                       | 1-2 外観 |             |
|----------|-----------------------|--------|-------------|
| 建物名称     | ブリージアテラス淵野辺           | 階数     | 地上14F       |
| 建設地      | 相模原市中央区淵野辺2丁目133番     | 構造     | RC造         |
| 用途地域     | 工業地域                  | 平均居住人員 | 935 人       |
| 気候区分     | 地域区分                  | 年間使用時間 | 8,760 時間/年  |
| 建物用途     | 集合住宅                  | 評価の段階  | 実施設計段階評価    |
| 竣工年      | 2013年8月 予定            | 評価の実施日 | 2013年6月28日  |
| 敷地面積     | 8,368 m <sup>2</sup>  | 作成者    | 長谷工コーポレーション |
| 建築面積     | 1,710 m <sup>2</sup>  | 確認日    | 2013年6月28日  |
| 延床面積     | 18,074 m <sup>2</sup> | 確認者    | 長谷工コーポレーション |



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 3.0**

S: A: B+: B: C:

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 71%

上記+ 以外の: 71%

上記+: 71%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境 (敷地内): 4

LR1 エネルギー: 1

LR3 敷地外環境: 3

LR2 資源・マテリアル: 2

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.5

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 4.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

| 3 設計上の配慮事項  |  |   |
|---|--|---|
| <b>総合</b><br>パルコニー側は全面にガラス手摺を採用することで圧迫感を低減し、周囲の環境への配慮に努めた。外壁はアースカラーを採用し落ち着いたファサードとした。住戸には採光通風性を高めるハイサッシや玄関窓の排水、更新対策用高耐久ステンレス給水・排水管の採用、水廻りの移動を可能とする段差スラブの範囲の拡大を計画。また、隠蔽梁を採用し住戸の更新性を容易なものとした。 |  | <b>その他</b><br>・住戸はハイサッシの採用<br>・玄関部に採光換気窓の採用<br>・水廻りの移動が可能<br>・隠蔽梁の採用                                |
| <b>Q1 室内環境</b><br>・省エネ等級 4 相当<br>・住戸には庇及びカーテンレール設置<br>・F V O C の放出が極めて少ない部材を採用  | <b>Q2 サービス性能</b><br>・共用部維持管理対策等級 2、劣化対策等級 3 取得予定<br>・災害時井戸水ろ過システムによる飲料水の確保を計画<br>・高耐久ステンレス給水システム、更新対応排水システムを採用 | <b>Q3 室外環境 (敷地内)</b><br>・相模原市景観計画に適合した彩色とした。<br>・建物を隣地境界・道路境界からセットバックし良好な日照環境計画とした。                 |
| <b>LR1 エネルギー</b><br>・全ての住戸が二面以上の外皮に面する計画とし、自然エネルギーの直接利用に配慮<br>・省エネ等級 4 相当<br>・潜熱回収型給湯器の採用   | <b>LR2 資源・マテリアル</b><br>・二重天井・二重壁により仕上げ棟と躯体が用意に分離可能<br>・節水型便器およびキッチン、U B に節湯器具を採用<br>・珪外資材を採用し、非再生性資源使用量の削減に努めた | <b>LR3 敷地外環境</b><br>・沿道緑化に努め、相模原市の緑化基準に適合<br>・平置駐車場 100%確保し交通負荷の抑制に努めた<br>・ディスポーザーを採用し廃棄物処理負荷抑制に努めた |

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される